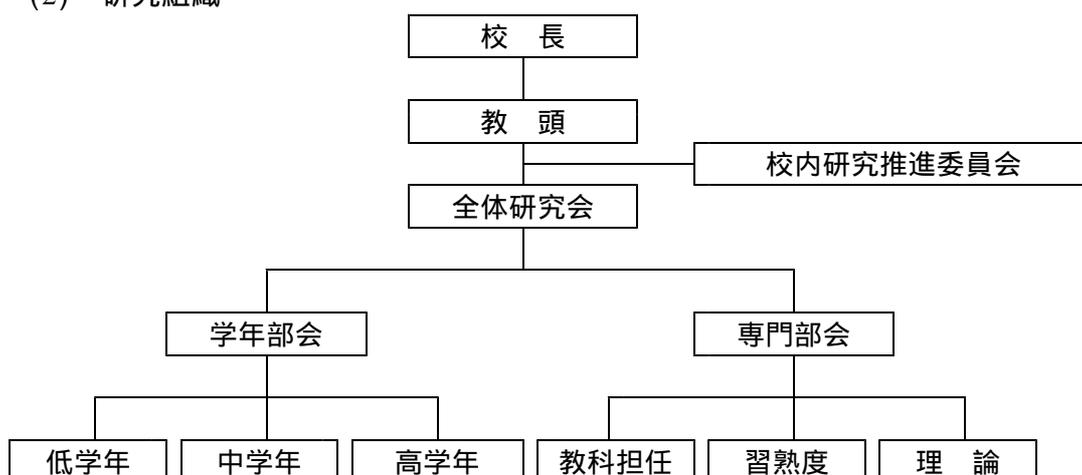


(2) 研究組織



() 実践研究の内容

(1) 教科担任制

実施学年：5 学年、6 学年

実施教科：国語、社会、算数、体育、家庭科

各学級の理科・音楽は、従来通り当該専科教員が受け持つ。

算数は、指導方法工夫改善担当教員（加配）と共に習熟度別少人数授業を行う。
教科担当の連絡会（火曜日）を設定し、教科担任合同部会や教科別部会を実施する。

(2) 習熟度別少人数指導

実施学年：全学年

実施教科：算数（1 学年、2 学年は他教科も含む）

習熟度別少人数指導の基本的な考え方

- ・習熟度別少人数指導は、個に応じた指導法である。
- ・習熟度別少人数指導は、個性の開発や確かな学力の定着を図るための有力な指導法である。
- ・習熟度別少人数指導は、学校課題や子どもが抱える問題解決の有力な指導法である。
- ・習熟度別少人数指導は、硬直化した授業の改善を図る効果的な指導法である。

学習集団編制

- | | | |
|------|------|--------------------------------|
| 1 学年 | 2 学級 | 5 学習集団（担任、校長、理科専科、通級指導教員） |
| 2 学年 | 3 学級 | 4 学習集団（担任、教頭、指導方法工夫改善担当教員 2 人） |
| 3 学年 | 3 学級 | 3 学習集団（担任、指導方法工夫改善担当教員 2 人） |
| 4 学年 | 3 学級 | 4 学習集団（担任、指導方法工夫改善担当教員 2 人） |
| 5 学年 | 3 学級 | 4 学習集団（担任、指導方法工夫改善担当教員 2 人） |
| 6 学年 | 3 学級 | 5 学習集団（担任、指導方法工夫改善担当教員 2 人） |

校長、教頭を含む全教員による指導体制を確立している。

() 成果と課題

(1) 成果

児童の側から

当該教科が以前よりも「好きになった」児童が増えた。

- ・国語：5年生36.5% 78.6% 6年生36.6% 75.0%
- ・社会：5年生36.5% 58.5% 6年生30.5% 69.0%
- ・算数：全体 53.0% 75.0%

教師の個性や専門性等に触れることにより、「学習が楽しい」「いろいろな技ができるようになった」児童が増えた。

担任以外の教師とのコミュニケーションが増え、学校が「楽しい」児童が増えた。

習熟度別少人数指導により、どの子どもこれまで以上に質問や発表の機会が増え、意欲的に学習するようになった。

各教科の単元テストの平均点が期待値以上に伸びた。

一人一人の児童の学ぶ意欲を喚起し、達成感を高めている。

教師の側から

担当教科が少なくなる分、担当教科の教材研究の深まりや指導内容の重点化を図ることができた。

教材が複数回活用でき、回を重ねるごとに授業改善が図られ、密度の高い授業が展開された。

学年全体の児童が関わることで、学習指導はもちろん、生徒指導や児童理解の面からもかなりの効果がみられ、学年経営に生かすことができた。

学級担任と加配教員が連携することによって、多様な指導方法が可能になる。各教師の個性や特技、専門性により、多様な学習形態の工夫と教材ができた。

学校運営の面から

教師の意識の変容、学校の活性化、指導体制の確立、学校の内外に開かれた学校づくりができつつある。

児童、教師、保護者それぞれの学習観、指導観の転換が図られた。

(2) 課題

発表する子が増えたが、表現力は十分とはいえない。

子どもの意欲を高めるための場、方法、評価活動が十分とはいえない。

学級間の進度の調整、加配教員との打ち合わせの時間の設定が厳しい。

学校行事等の振替休業で欠けた曜日の補充が困難である。

() 成果の普及方策

- (1) 「学力向上フロンティア事業」実践発表会の開催
- (2) 中頭地区学力向上対策実践発表大会での発表（ポスターセッション形式）
- (3) 県教育委員会のホームページへの掲載